

Zoom Up

児童目線で通学路を点検

小型カメラで事故を未然に防ぐ

市では、交通死亡事故ゼロを目標に掲げ、啓発や交差点のカラー化などの対策に取り組んでいます。その一つとして、通学路の安全を確認するため、ランドセルに付けて映像を撮影できる小型カメラを導入。子ども目線の映像から危険箇所などを把握し、改善につなげていきます。

2021年、全国で起きた交通事故は30万件以上でした。千葉県八街市では、下校中の小学生が犠牲となる痛ましい事故が発生。市内では711件発生し、うち31件は中学生以下の子どもが関連した事故でした。市ではこれまでも、学校から通学路の改善要望を受け付けるなどの対応をしてきましたが、今年度から、さらに安全対策を強化。カメラによる通学路の点検を新たに始めました。

点検で安全な通学路に

大人の目線では気付きにくい通学路



カメラを付けて通学路を登校する児童たち

の危険を見つけるため、児童のランドセルに付けて通学路を撮影できる小型ウェアラブルカメラ(左欄参照)を市内全小学校に2台ずつ導入しました。6月には、モデル校で実際に装着し、子ども目線での点検を始めました。点検したのは、妻田・清水小学校の2校です。集団登校中の先頭と最後尾の児童に小型カメラを付け、通学の様子を撮影。見通しの悪い交差点や通勤時間帯の交通量が多い場所などに加え、大人の目線では見えにくい箇所がないか点検しました。撮影は、登校・下校時の1回ずつ。事故の恐れのある箇所だけでなく、子どもの危険な行動

危険な箇所は改善を

撮影した映像は、市職員や県土木事

なども把握できます。カメラを使い、自治体と学校が協力して交通安全対策に取り組むのは、全国でも初めてです。子どもが妻田小学校に通う藤井千絵子さん(46・妻田西)は「普段から、下校時は特に交通量が増えるので気をつけるよう伝えていた。今回の点検では、危険な場所を映像で確認できるだけでなく、子どもの注意がどこに向いているのかも分かると思う」と取り組みに期待を寄せます。

対策に向けた取り組み



実際の撮影映像

カメラを付け登下校時の通学路を撮影

映像を協議会で共有し検証

問題点を改善

ウェアラブルカメラとはリュックサックの肩ひもや自転車などに装着し撮影できる軽量な小型カメラ。手に持たず撮影者の視点で撮影が可能



務所、厚木警察署で構成する通学路の安全対策協議会で共有し、検証します。モデル校では、「信号の前に待機場所がない」「横断歩道があるのに、ない場所を横断している」などの意見が上がりました。今後、問題点を改善するため、歩道の延長やカラー舗装、歩道に歩行者の停止を促すフットマークの設置などの検討を進めます。9月からは、残りの21校も同様に、点検・検証をスタート。子どもたちが安全に学校に通えるよう、順次、安全対策を講じていきます。

市では他にも、全年代への自転車用ヘルメット購入費補助や、子ども・高齢者向け交通安全教室の開催など、事故防止に取り組んでいます。これからも交通死亡事故ゼロに向けて、安全なまちづくりを進めていきます。

問 学務課 ☎225-2650

対策強化で安全な通学路に

市内小・中学校全36校を対象に、通学路の交差点内のカラー化やガードレールの設置など、安心・安全な道づくりを目指します。

問 道路整備課 ☎225-2310

《実施例》 愛甲小学校正門前(歩行者たまりを拡幅)



施工前

待機場所が狭い歩道



施工後

広くなった歩行者たまり

特色のある教育を

幼稚園で楽しく学ぼう

特色ある教育に取り組む市内の幼稚園で、子どもに合った幼児教育を受けてみませんか。

問 こども育成課 ☎225-2262



入園願書を10月15日から配布開始

2023年度の新入園児の願書を受け付けます。願書や募集要項は各園で配布します。

- 《対象》 3歳～就学前の子ども
- 《開園時間》 7時30分～19時
- 《保育時間》 9～14時(時間外は預かり保育)

対象や時間、保育料は園ごとに異なります。見学の申し込みなど、詳しくは希望の園に問い合わせてください。

本厚木駅前の公共施設から幼稚園に送迎

送迎が難しい保護者に代わり、あつぎ市民交流プラザの託児室「わたぐも」を中継場所として、送り迎えするサービスです。

- 《対象》 対象幼稚園の在園児(対象幼稚園はこども育成課に問い合わせ)
- 《利用時間》 受け付け=7時15分～8時15分  
引き取り=18時30分～19時30分(一時的な利用も可)
- 《利用料》 片道100円

問 対象幼稚園にある申込書を、在園する幼稚園に提出。

詳しくは市HPに掲載▶

